

中学校

平成 16 年 度

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教職員研修センター

# 目次

研究の背景と研究のねらい	-----	2
1 研究の背景	-----	2
2 研究のねらい	-----	2
3 研究の方法	-----	3
全体の研究構想	-----	3
第1分科会		
1 副主題設定の理由と研究のねらい	-----	4
2 研究の仮説	-----	4
3 研究の内容	-----	5
4 実践事例	-----	6
5 研究の成果と課題	-----	13
第2分科会		
1 副主題設定の理由と研究のねらい	-----	14
2 研究の仮説	-----	14
3 研究の内容	-----	14
4 実践事例	-----	18
5 研究の成果と課題	-----	23
研究の成果と今後の課題	-----	24

## 豊かな表現力を養うための個に応じた指導の充実

## 研究の背景と研究のねらい

## 1 研究の背景

世界の経済・社会がより急速に国際化していくことが予想される21世紀において、国際共通語となっている英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは、重要な意味をもつものと考えられている。しかし現状を見ると、日本人の多くが国際的な活動や外国人との交わりにおいて英語力の不足を感じていると言われており、英語教育については、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るための更なる改善が強く求められている。

このような情勢を反映して、現行の学習指導要領は、外国語を必修とし、英語を履修させることを原則としている。そして、学習指導要領解説外国語編では「実践的コミュニケーション能力」、つまり、「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識をもっているというだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」の育成をめざし、その基礎を養うことを中学校での外国語教育の目標として掲げている。

この目標はまさに、「生きる力」の育成という学習指導要領の基本的なねらいと結び付いている。平成15年10月の中央教育審議会答申で示されたように、「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」、つまり、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含む能力を養うことが求められているのである。

これを踏まえ、平成15年12月、文部科学省は、学習指導要領のねらいの一層の充実を図るべく、学習指導要領の一部改正を行った。これによって、個に応じた指導の充実のための指導方法等の例示として、「生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導」が加えられた。「確かな学力」を育成し、学習指導要領のねらいを実現するために、生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の一層の充実を図ることが求められている。

## 2 研究のねらい

以上の背景を踏まえ、本研究ではコミュニケーション能力の中でも、特に、コミュニケーションを図るために必要不可欠な「表現力」の向上に重点を置いた。そして、生徒に「単に英語で表面的・機械的に表現するにとどまらず、自分の考えや気持ちなど伝えたいことを自ら進んで表現する力」を身に付けさせることをねらいとして、研究主題を「豊かな表現力を養うための個に応じた指導の充実」とした。

「表現力」の観点に着目したことから、「話すこと」「書くこと」の2つの分科会に分かれて、それぞれ期待する生徒像に迫るためには、どのような指導の工夫をすればよいのか研究することとした。また、生徒の実態に合わせてそれぞれの能力を伸ばすために、既存の枠組みの中でどのような「個に応じた指導」の充実が図れるか、その可能性を探った。

### 3 研究の方法

#### (1) 基礎研究

学習指導要領及び先行研究を参考にしながら、研究の方向性を探った。

#### (2) 調査研究

教育研究員の所属校で、英語学習についての質問紙法による実態調査を行い、特に「話すこと」、「書くこと」について生徒の興味・関心、学習上困難に感じている点等を把握した。

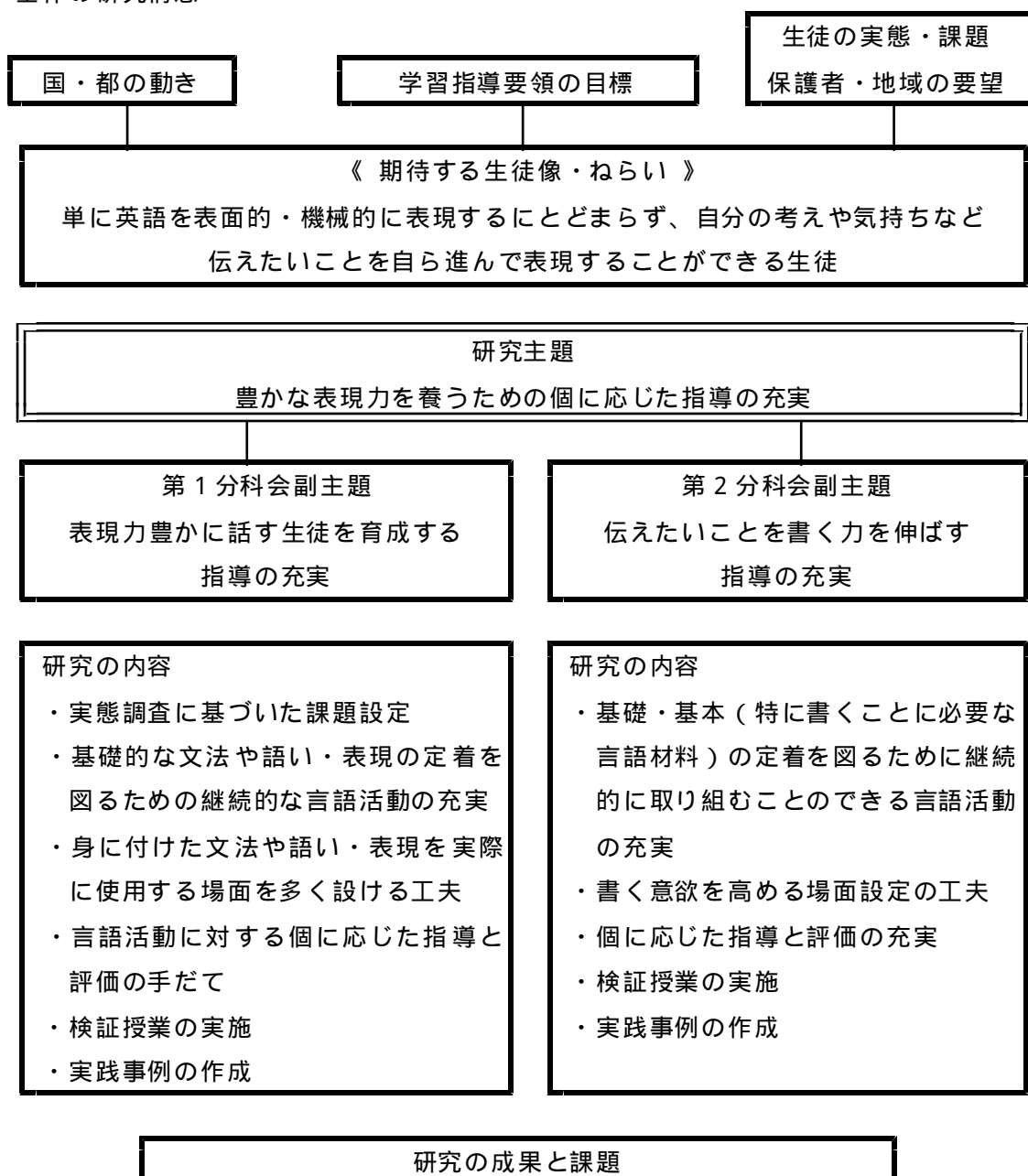
#### (3) 検証授業

教育研究員の所属校において、本研究に関する検証授業を行った。

#### (4) 実践事例作成

検証授業における生徒の学習状況をもとに、学習指導案を見直し、実践事例としてまとめた。

全体の研究構想



1 副主題設定の理由と研究のねらい

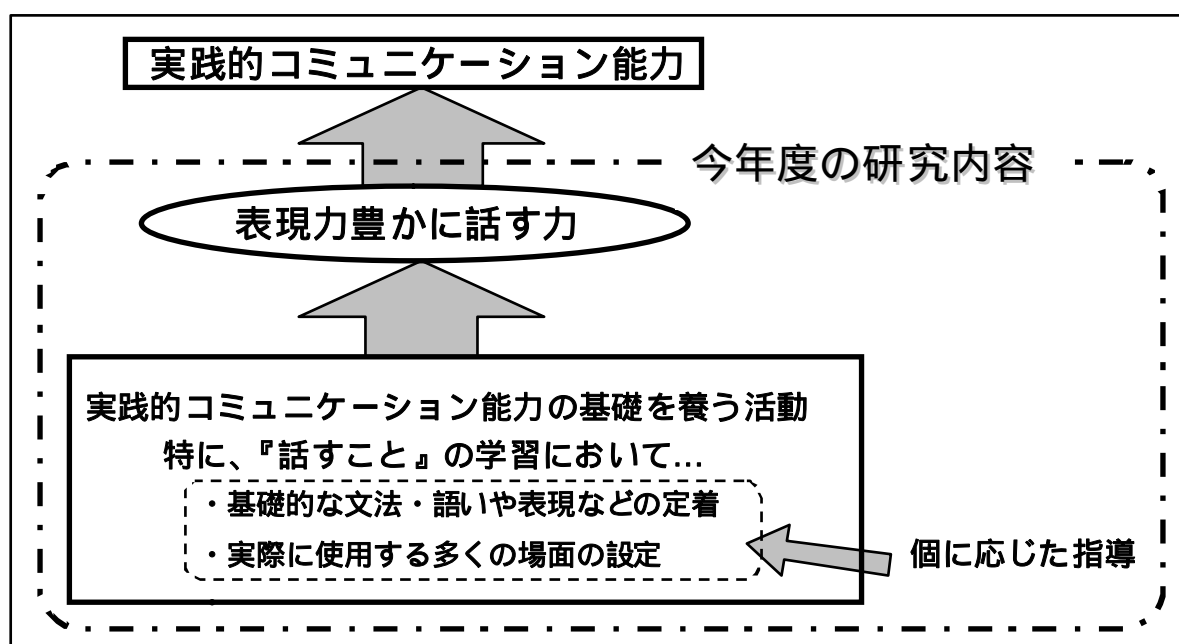
現行の学習指導要領においては、実践的コミュニケーション能力の育成をめざし、特に中学校段階では音声によるコミュニケーション能力の育成を重視している。

これを受けて各学校では、「聞くこと」や「話すこと」に重点を置いた言語活動が実践されているが、「話すこと」の活動においては、文法・語いや表現などを習得するための表面的・機械的な活動にとどまり、それらを運用する活動にまで十分に生かされているとは言えない場合も多い。そのため、実際に「考えや気持ちなど」を述べ合う言語活動が行われる場合においても、生徒が紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりしかできないというような問題点も見られた。この背景には、生徒が適切な言葉が分からないことに難しさを感じて話すことを諦めてしまったり、間違いを避けるために簡単なことしか話さなかったりしているということが考えられる。しかし、生徒の多くは話したいという思いをもっており、英語で「話すこと」に対する抵抗を軽減することができれば、「積極的に会話を継続し発展させていこうとする能力と態度」を育てることができるのではないかと考えた。

そこで第1分科会では、副主題を「表現力豊かに話す生徒を育成する指導の充実」とし、その指導について研究することとした。

2 研究の仮説

以上のことを踏まえ、「『話すこと』の学習において、基礎的な文法・語いや表現などの定着を図るとともに、実際にそれらを使用する場面を多く設けることによって、表現力豊かに話す力が養われるであろう」と仮説を立てた。



### 3 研究の内容

#### (1) 指導上の課題

教育研究員第1分科会の所属校で、英語で「話すこと」に関する指導上の課題を整理した。

英語を話す際に使用する文法や語いなどを定着させる指導の工夫が必要である。

継続的に「話すこと」の指導を行う必要がある。

#### (2) 課題解決のための手だて

基礎的な語いの定着を図るために、毎授業で「ビンゴゲーム」を実施する。

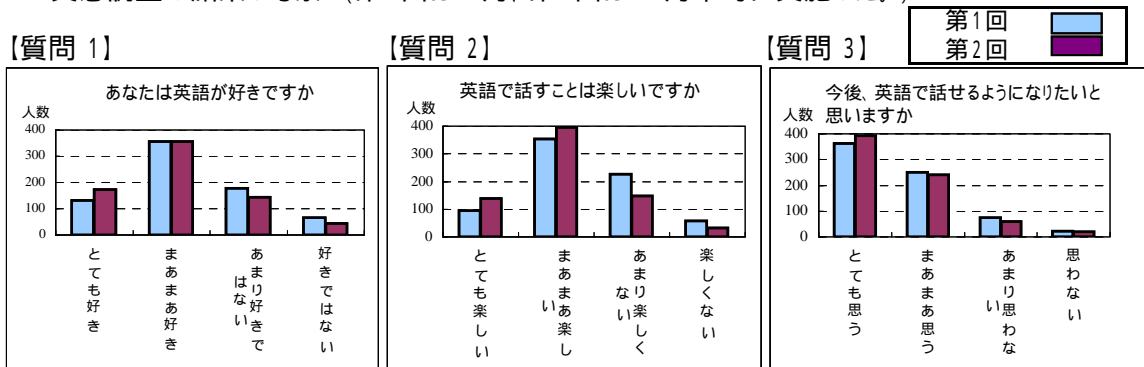
毎授業の最初にペアで特定のテーマについて自由に会話する活動(以下「チャット」と呼ぶ)を実施する。

#### (3) 実態調査

生徒の実態を把握しその結果を授業に活かす工夫をすることと、チャット実施前と後との比較をすることとした。

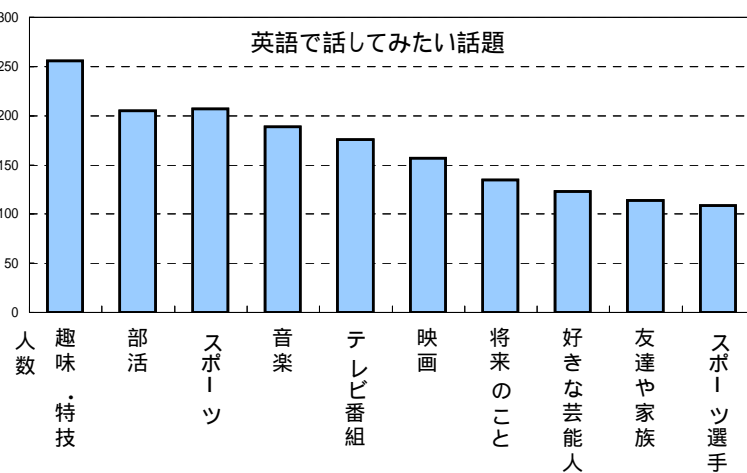
調査対象6校 第1回 733名、第2回714名(1年生227/215名、2年生446/442名、3年生60/57名)

実態調査の結果と考察 (第1回は9月、第2回は10月中旬に実施した。)



< 第1回調査のみで実施 >

#### 【質問 6】



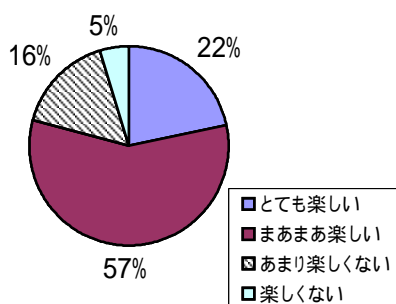
質問1と質問2では「好き」「楽しい」の人数が増加している。生徒の実感からも英語を話す機会を多く設けたことで、楽しいと感じられるようになってきていることが考察される。

質問3で英語で話せるようになりたいと思う生徒数が増加していることから、チャットは生徒の興味・関心を高める活動として有効であると考えられる。

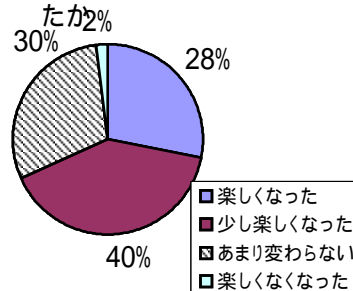
第1回調査の質問6は生徒が話してみたい話題のベスト10である。

< 第2回調査のみで実施 >

【質問 4】 9月からはじめたチャットは楽しいですか



【質問 5】 チャットをはじめめる前と比べて、英語で「話すこと」が楽しくなりましたか



8割近くの生徒がチャットを楽しみと感じ、7割近くの生徒が楽しくなったと答えている。「あまり変わらない」生徒は元々楽しかったからとの理由等で、概ねチャットは効果を挙げていると考えられる。

#### 4 実践事例

##### 話す力を育てるためにチャットを取り入れた実践例

###### (1) 「チャット」について

第1分科会では、授業の中で継続して実践できる活動の一つとして、「チャット」を取り上げた。これにより英語使用に対する抵抗（難しいという先入観や照れなど）を軽減するとともに、会話を継続させようとする姿勢を育てようと考えた。

チャットの具体的な実施方法は、以下の通りである。

本日のテーマを提示 話す内容を各自、頭の中で整理して、練習 ペアでのチャット（1分間） 話した内容をチャット・シートへ転記 チャット・シートの回収	}	トータルで5分間
---	---	----------

###### (2) 検証授業

チャットを開始して約2ヵ月が経過した10月中旬に、第2学年で以下のような検証授業を行った。なお、通常チャットを行うのは授業の開始時に1回のみであるが、本検証授業では、授業内に獲得した文法・語いを生かした2回目のチャットを終了間際に行った。

使用教科書 New Crown English Series 2 ( Lesson 6 『Speech --- ‘My Dream’』 )

単元の目標：

- ア to不定詞の三用法を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。
- イ 登場人物Kenのスピーチ内容について理解し、自身の職業や将来についての考えを深める。
- ウ スピーチの原稿作成や発表を通じ、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

本単元の観点別評価規準

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
聞く	チャット、言語活動に積極的に取り組んでいる。 他者のスピーチに耳を傾け、理解しようとしている。	/	to不定詞を含む文を聞いて、その内容を理解することができる。	/
話す	チャット、言語活動に積極的に取り組んでいる。 将来についての自分のスピーチを、自分の言葉で堂々と行う。	自分の考えや気持ちが相手に伝わるように話すことができる。	/	場面や状況に応じて話すための強勢やイントネーションの違いを理解している。

読む	自分の身の回りの職業について考えながら、Kenのスピーチの英文を読もうとする。	将来の職業について自分の夢を言うとき、感情を込めるなどして音読することができる。	Kenのスピーチの英文を読んで、内容を正しく理解するとともに、保育士の仕事についても理解を深める。	強勢、リズム、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声に注意して音読することができる。
書く	将来についての自分の考えをまとめ、スピーチ原稿にまとめる。	文のつながりや構成を考え、自身の意向が伝わるよう原稿を作成する。		to不定詞を用いた文を正しく書くことができる。

### 単元の指導計画

- 第1時 to不定詞 [ 副詞的用法 ] の文の形・意味の理解、表現の練習 (本時)
- 第2時 Lesson 6-**1**の内容理解、to不定詞 [ 副詞的用法 ] を用いた表現の復習と定着
- 第3時 to不定詞 [ 名詞的用法 ] の文の形・意味の理解、表現の練習
- 第4時 Lesson 6-**2**の内容理解、to不定詞 [ 名詞的用法 ] を用いた表現の復習と定着
- 第5時 to不定詞 [ 形容詞的用法 ] の文の形を用いた表現の練習
- 第6時 Lesson 6-**3**の内容理解、to不定詞 [ 形容詞的用法 ] を用いた表現の復習と定着
- 第7時 将来つきたい職業についてのスピーチ原稿作成
- 第8時 将来つきたい職業についてのスピーチの発表

### 本時のねらい

#### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- 自分の考えや気持ちなどを英語で積極的に伝えようとしている。

#### 【表現の能力】

- チャットやペアワークなどを通して、自分の考えや気持ちなどが聞き手に伝わるように英語で話すことができる。

#### 【理解の能力】

- チャットやペアワークなどを通して、相手の考えや気持ちを理解することができる。

#### 【言語や文化についての知識・理解】

- 目的を表すto不定詞の意味・用法を正しく理解する。

### 本時の流れ (仮説とのかかわりを含む)

時	学習活動・内容	教師の支援	仮説とのかかわり	観点
3	1) Greeting	●あいさつ		
12	2) Warm-up Bingo  Chat ペアでの1分間 Chat 及びその記録。	●自然な速度、発音に留意する。  ●明確で取り組みやすいテーマを提示。	仮説 「基礎的な文法・語いや表現などの定着」 仮説 「実際に使用する多くの場面の設定」	関心 理解  関心 表現



10	<p>3) Presentation of the New Material Oral Presentation 例文を聞き、to不定詞の意味を類推する。</p> <p>Explanation 例文の意味を理解する。</p> <p>Oral Drill 絵を見て自分たちで例文を言う。</p> <p>T-S Question 絵を見ながら教師の問いに答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然に生徒の声を引き出せるよう、類推しやすい英文とイラストを用意する。</li> <li>●to不定詞の意味を確認させる。</li> <li>●生徒が自発的に言えるような例文、場面設定を行う。</li> <li>●教師からの問いかけにより、生徒の発話をうながす。</li> </ul>	<p>仮説 「基礎的な文法・語いや表現などの定着」 生徒にとって理解しやすい例文を用意し、to不定詞の意味・用法について定着を図ることで、後の発話につながる表現力が養われたか。</p>	表現知識
15	<p>4) Expansion Pair Work 1 海外旅行者へのアドバイスという設定のもと、「～するために...に行く」という例文をペアでたくさん考える。</p> <p>Pair Work 2 自身の海外旅行を想定し、その目的も含めてペアで発表し合う。</p> <p>Group Work 各自の海外旅行希望先と目的について、グループ内で発表する。</p> <p>Chat 上記練習を踏まえた上で、「海外旅行」をテーマに再度チャットを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の心理的負担を軽減するため、まずはペアで協力して考えさせる。</li> <li>●自身のこととして自由に発想してよいことを伝える。</li> <li>●で発した英文を、グループ内で発表しあうことで定着を図る。</li> <li>●今日習った言語材料で、発話の量が増えることを知らせる。</li> </ul>	<p>仮説 「実際に使用する多くの場面の設定」 to不定詞を用いた文を実際に考え、使用することで、発話への積極性や内容などに変化が見られたか。</p>	関心表現理解
5	<p>5) Consolidation Self-evaluation チャット内容や発話量を記録し、自身の達成度を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チャットの内容や発話量が授業開始時のものと比べ深まっていることを自覚させる。</li> </ul>	<p>仮説 「基礎的な文法・語いや表現などの定着」 チャットの内容を自分で記録し、使用した例文の定着を図ることで、表現力の基礎が定着したか。</p>	関心表現理解
4	<p>6) Evaluation 授業のアンケートを記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●焦点を明確にし、答えやすい形式にする。</li> </ul>		
1	<p>7) Closing</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あいさつ</li> </ul>		

評価

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・自分の考えや気持ちなどを英語で積極的に伝えようとしていたか。

【表現の能力】

・チャットやペアワークなどを通して、自分の考えや気持ちなどが聞き手に伝わるように英語で話すことができたか。

【理解の能力】

・チャットやペアワークなどを通して、相手の考えや気持ちなどを理解することができたか。

【言語や文化についての知識・理解】

・目的を表す to 不定詞の意味・用法を正しく理解できたか。

資料

【ワークシート】（表面）Expansion - Pair Work 1 で使用

**MILESTONE** *No. 107*

2 \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

**A** Be a good travel agent! 旅行案内をしよう。  
ペアで以下の練習をしてみましょう。

一方が海外旅行でどんなことをしたいかを日本語で言う。  
(例)「～を食べたい」「～を見たい」「～に会いたい」など

パートナーが、それを受けてどこに行ったらいいかを英語でアドバイス。

**基本形**： Please go to 地名 to ~ .

アドバイスをもらったら必ずお礼。

以下役割を交代で行う。  
二人で協力していくつのアドバイスを出し合えるでしょうか？

(例) A: 美味しいスパゲッティを食べたいんですが・・・。  
B: OK. Please go to Italy to eat good spaghetti .  
A: ありがとうございます。 / Thank you very much.

【ワークシート】（裏面）Expansion - Pair Work 2 で使用

**B** Think about your own travel plan !

今度はアドバイスではなく自分自身の「冬休みにいきたい場所」「その目的」について自由に考えてみましょう。「行ってみたい」という願望で構いませんよ！  
そしてそれを英語で表してみましょう。

**基本形**： I will go to 場所 to ~ .

(例) I will visit South Korea to eat good karubi .  
(美味しいカルビを食べに韓国に行くつもりです)

**hint**

- ～を食べる : eat ~
- ～に会う : meet ~
- ～を見る : see ~
- ～を買う : buy ~
- ～を訪ねる : visit ~

【チャット・シート】

**Let's Chat** No.( )

Date / Class No. Name

**Today's O☆D☆A☆I**

自分の話した英文 Your partner ( )

○ words

あいづちを3回以上言えましたか。 Yes / No

**自己評価**

1 今日の Chat はどうでしたか。(○をつけよう。)

A (very good)
B (good)
C (so so)
D (not so good)

2 今日の Chat で『言いたかったけど言えなかったこと』(3種でOK)

3 今日の反省・感想

その回のチャットのテーマを記入。  
授業の中では「<sup>オダイ</sup>ODAI」と呼称。

自分が言えた英文を、チャット終了後に思い出しながら記入。

チャットで話した総語数。

終了後の自己評価、言いたかったけれども言えなかったことなどを記入。教師はこれを点検することで、次に生徒にどのような指導、助言を行うかを判断し、個に応じた指導と評価を行う。

【チャット 結果集計表】

👍 会話に使える表現 in English 👍

- ☆相手をほめるとき 相手に対して(喜んで)同意するとき  
Great! / Sounds nice ( great / fun / interesting ). / That's great!  
Wow! / Good! / Congratulations!
- ☆相手をなぐさめるとき That's too bad! / Oh, no! / That's terrible.
- ☆あいづち I see. / It's OK. / Really? / It's not bad. / Uh-huh.
- ☆考えているとき Let me see... / Well... / Just a moment, please.
- ☆相手の話がわからないとき What do you mean?
- ☆もう一度言ってほしいとき Excuse me? / Pardon? / Once more please.
- ☆今の自分の気持ち Great! / Pretty good. / OK!  
Not bad. / All right. / Not so good.

**Chat's words**

Words	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	Total					Total				
	Average					Average				

Words	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	Total					Total				
	Average					Average				

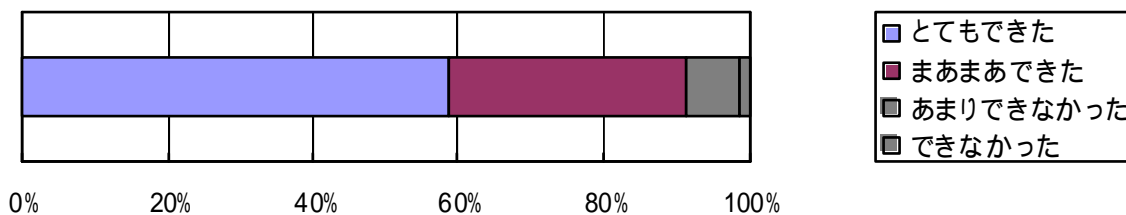
チャットシートを綴じた冊子の裏表紙の印刷。チャットで使える便利な表現集。

チャットで発話した総語数をその都度記録。5回を1セットとし合計と平均を算出。自身の成長の跡を知る目安とした。

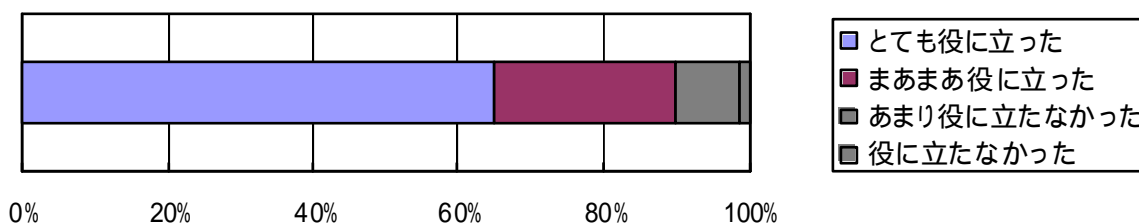
授業後のアンケートのまとめ

問1 今日の授業を終えて

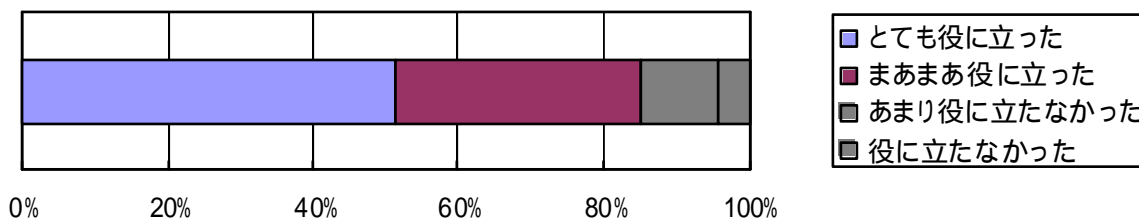
(1) 今日の授業に意欲的に取り組むことができましたか。



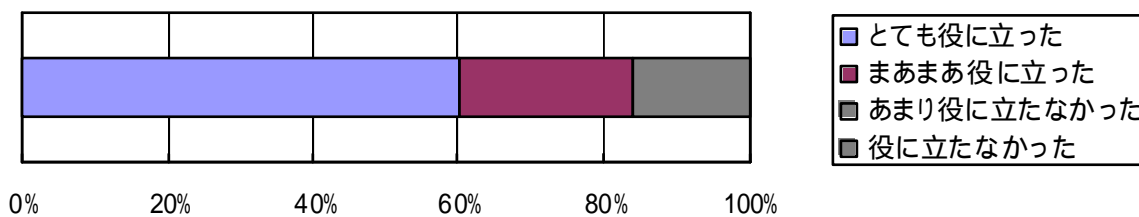
(2) イラストを使った説明は、文の意味を考える上で役に立ちましたか。



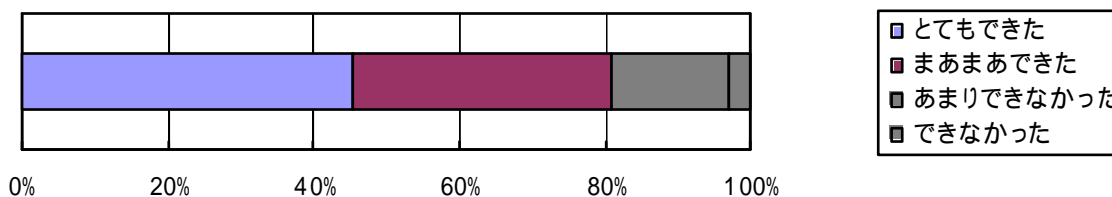
(3) イラストを見ながら英文を言う練習は、例文を覚える上で役に立ちましたか。



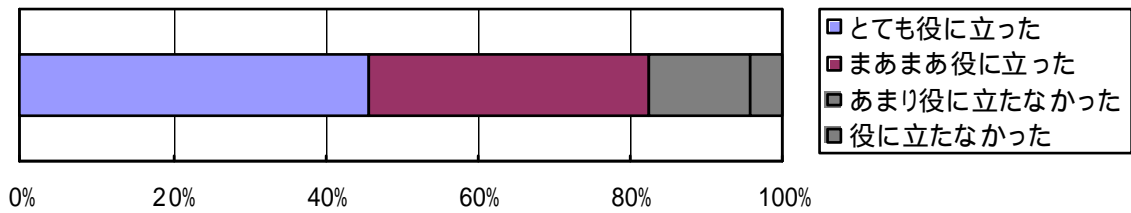
(4) イラストを見て先生の質問に英語で答える練習は、例文を覚える上で役に立ちましたか。



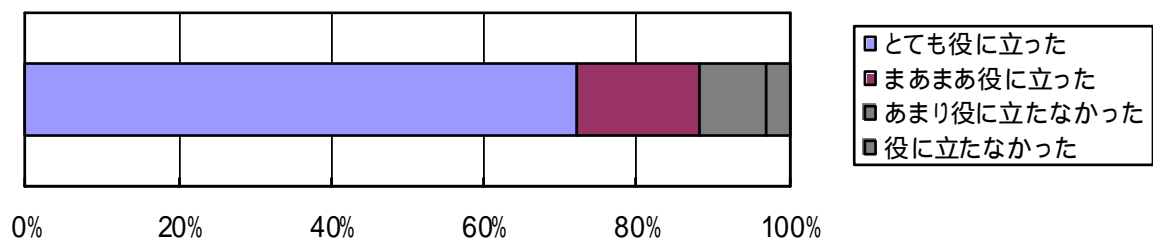
(5) 「海外旅行をする人にアドバイスを考える」という設定は（そうした設定がないときに比べて）文を考えやすかったですか。



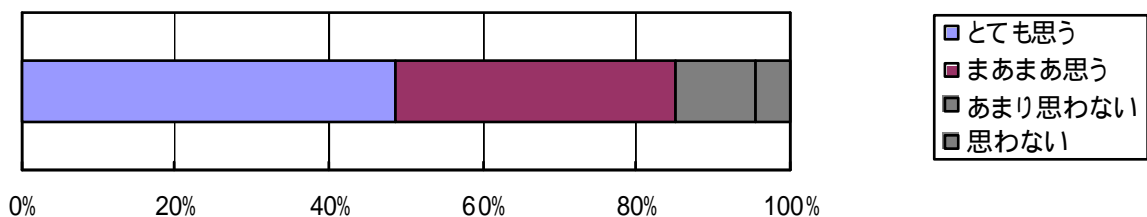
(6) 上の (5) の活動をやったことが、自分自身の旅行の目的を英語で言う時に役に立ちましたか。



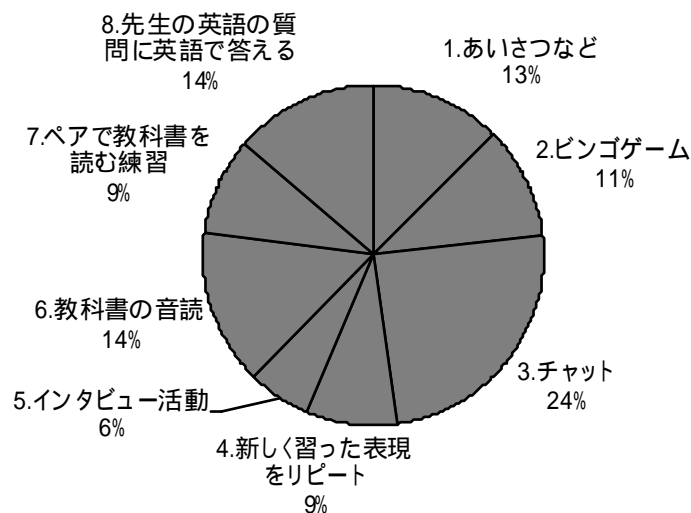
(7) 上記のような一連の練習、活動をしたことは、授業最後の2回目のチャットに役に立ちましたか。



(8) 授業の最後のチャットの発表は今後のチャットの活動にプラスになるといいますか。



問2 日頃の授業で取り組んでいる活動で、英語を話す力を高めるのに役に立つと思うものは何ですか。



## 5 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

第1回・第2回実態調査における質問1、2、3の結果から、英語で話すことに対する生徒の意識が変化してきていることが読み取れた。チャットのテーマ‘Today’s ODAI’は、第1回調査で生徒の関心事を聞いた上で、各校で生徒の実態に合わせて設定してきた。その結果、第2回調査での生徒の意識を見ると、7割近くの生徒が英語で話すことが楽しくなったと答えている。チャットの内容については、始めたばかりのころには数語で、型にはまった英語だけだった生徒が、回数を重ねるうちに、発想豊かに会話を発展させるように変化してきていた。「今日のチャットのテーマは何ですか？」と積極的に聞いてくるなど、毎回の授業でのチャットの時間を生徒は楽しみするようになった。第2回調査の質問4からもそのことは読み取れる。「会話に使えるあいづち集」を与えたことも効果的であった。個に応じた指導として、「言いたかったけれど言えなかった表現」を用紙に記入させ、後日その表現を個別に書いて教えたり、プリントにまとめたりして教えると、早速それを使って会話をしている姿が多く見られた。自分の言いたいことが英語で言える喜びから表現が豊かになってきていることが伺えた。

第2回調査で「英語で話すことが楽しくなった」理由として次のようなことを挙げていた。

- ・ 単語を覚えたり教科書を読んだりするのは違って自分の言葉で話せて楽しいから
- ・ 英語で話すほうが恥ずかしくないから
- ・ 英語で話せる言葉が増えたから
- ・ 英語の文を自分で考えて話すと楽しいから
- ・ 話せて達成感があるから
- ・ 文の作り方が分かるようになったから
- ・ 自分の話したいことを自由に話せるから
- ・ 単語がどんどん増えて言うことも増えて楽しく、日々上手になるから
- ・ 考えることが多くなり、話すという能力が養われるような気がするから など

また、各生徒のチャット集計結果（P.10 参照）からも発話語い数の増加が見られ、言いたいこと、表現してみたい内容が増えてきた。生徒のこれらの変容からも表現力が養われてきていると言えよう。さらには、書くことについても効果が見られた。英作文のテストにおいて、たとえ少しでも英文を書く生徒が増えてきたことから、生徒の自信と意欲につながり、表現力向上に効果を挙げていると考察された。

### (2) 今後の課題

チャットのテーマについては、事柄の事実を述べる内容と話し手の意思を述べる内容とがあらると考えられるが、それぞれについて3年間を見通し生徒の発達段階、既習言語材料配列に即したテーマの設定が課題であると考え。またチャット活動の中で間違えたまま生徒が覚えてしまわないように、個に応じた指導を継続しつつ、長期的に見て表現力の向上が図れるように、継続した繰り返しの指導をすることが重要であると考え。

評価についても活動の目的に応じて整理することが課題としてあげられる。

ペアワークとしてのチャット活動で効果をあげるためには、生徒同士の間関係も把握し、ペアの作り方についても研究が望まれる。本研究ではチャット活動を通して、生徒の表現力を高める実践をしてきたが、チャットの基礎となる音読をはじめとする日常の言語活動なども研究を重ねることも課題であると考え。

## 第2分科会

### 副主題 伝えたいことを書く力を伸ばす指導の充実

#### 1 副主題設定の理由と研究のねらい

学習指導要領の外国語の目標に「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」とあり、与えられた語や文を書き写すだけでなく、自分の考えなどを書けることを重視している。しかし、平成16年2月20日に東京都が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」によると、「書くこと」の平均正答率が最も低い。単に英語を表面的、機械的に表現するような空欄補充や語順整序などはできても、一から自分の言葉で作文したり、脈絡のある構成でまとまった分量の文章を書いたりすることが苦手な生徒が多く、その理由は様々であると考えた。第2分科会では「書くこと」における「豊かな表現力」を「伝えたいことを書く力」ととらえ、自分の言葉で考えや身の回りのことを英語で書き、相手に伝える力を伸ばすため、また一人一人が抱える様々な課題を解決するためにはどのように指導をしたらよいかを研究すべく、研究副主題を「伝えたいことを書く力を伸ばす指導の充実」とした。

#### 2 研究の仮説

##### 仮説1

コミュニケーション活動に必要な基礎・基本を身に付けさせれば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるであろう。

##### 仮説2

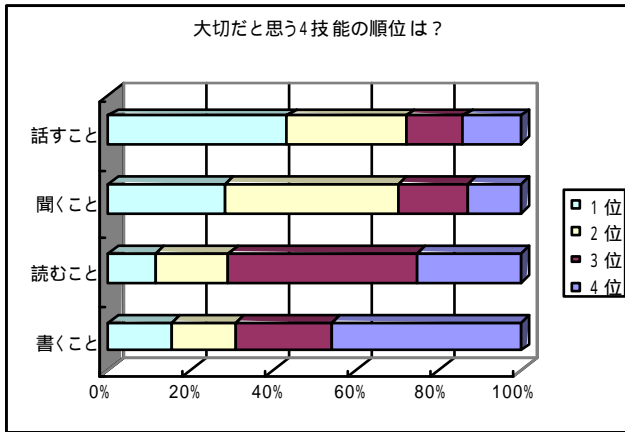
主体的に書こうとする意欲を高める指導を継続的に行えば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるであろう。

#### 3 研究の内容

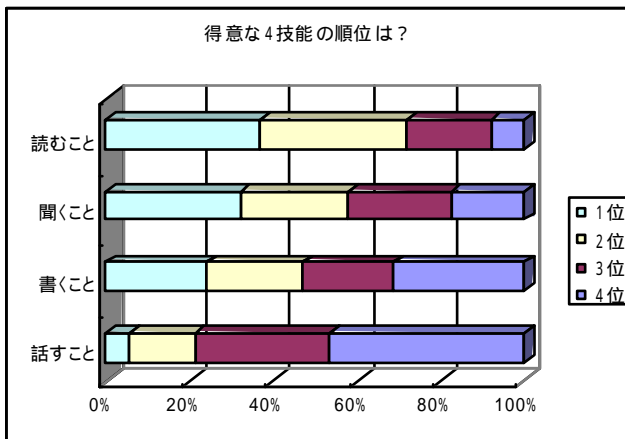
##### (1) アンケートの結果と考察

研究を始めるに当たり、生徒が「書く」ことに対して、どのような意識をもっているのか、どのような手だてが、「書く」活動を支援できるのかを知る手がかりとして、アンケートを行った。

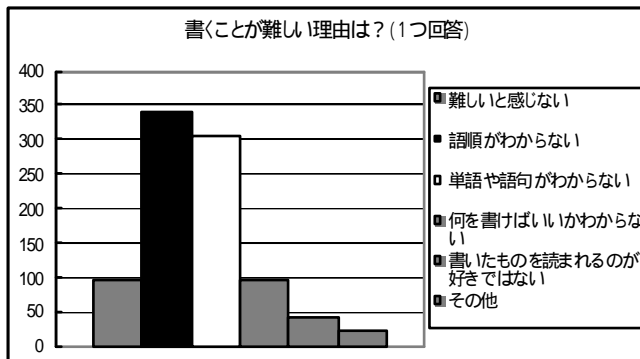
調査対象 903名（教育研究員の所属校にて実施 2年生440名 3年生463名）  
アンケートの結果



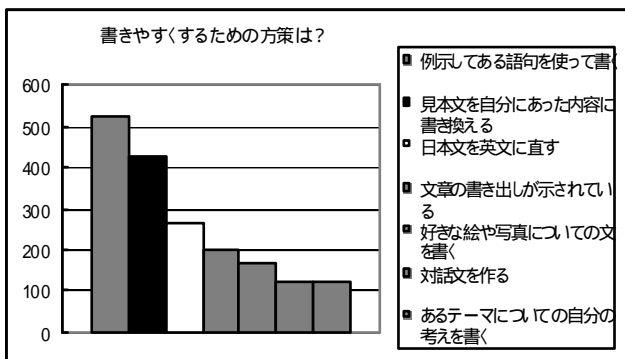
生徒は「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能の中では、「話す」ことを大切だと思う順位が高く、「書く」ことについては、半数以上の生徒が大切だと考える順位が低いことがわかった。



また、得意と感じる技能のトップは、「読む」こと、最も不得意なのは「話す」ことである。生徒にとって「書く」技能は、最も不得意ではないけれど、大切だと考える順位も低く、どちらかと言えば不得意な技能であることがわかる。

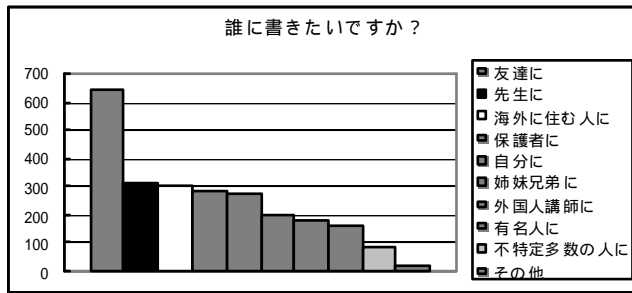


「書く」ことを難しいと感じない生徒は、全体の約10%いた。残りの90%の生徒は、「語順や文法がわからない」「単語や語句がわからない」などの理由により、書くことを不得意としていることがわかる。

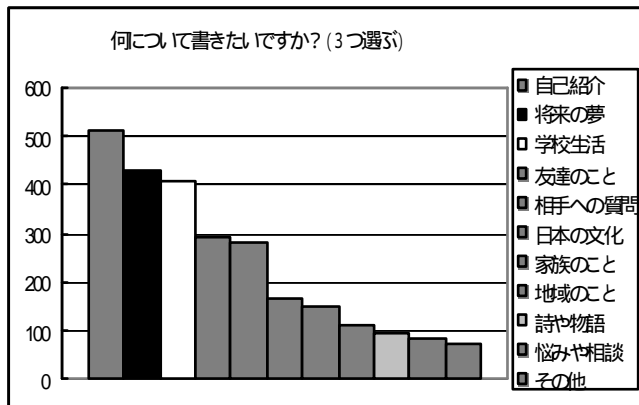


では、どのような補助手段を与えれば、「書く」活動が生徒にとって「取り組みやすい」活動になるのだろうか。このことを質問したところ、「単語や語句が例示してあること」「例文を参考に自分なりの英文を考えること」が、上位に挙がることがわかった。





また、まとまった内容を英文で書く際、「友達」に宛てて書く場合が最も書きやすく、次いで「先生」「海外に住む人」「保護者」「自分」に書くことが書きやすいことがわかった。



書きたい内容については、「自己紹介」「将来の夢」「学校生活のこと」が上位であり、次いで「友達のこと」「相手への質問」と続いている。つまり、生徒にとって「書く」ことへの抵抗を最小限にするためには、読み手を意識しながら、身近なテーマについて、継続して書く指導を行うことが有効であり、その際に、「書く」ことを援助する手立てを講じることで、生徒の書こうとする意欲を高めることができると考えられる。

## (2) 指導上の課題

学習指導要領の外国語の目標に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」とあり、また、英語の領域別の各目標に「初歩的な英語を用いて…」とあることから、英語によるコミュニケーション活動において求められるのは、「積極的な態度」と「基本的な知識」であると考えられる。「書くこと」においては、「話すこと」とは異なり、表現したものが文字として残るため、教師は「正確さ」を求めがちである。しかしそのことが、生徒が事実の羅列のみならず情意的な内容をも書く、つまり「伝えたいことを書く」上での学習上の障壁となっているのではないかと。実際の授業においてはスピーチや手紙、報告文のような、ある程度まとまった分量の英語を書く活動は時間がかかるため、あまり頻繁に設けることができない場合が多い。また、生徒によって書ける量も内容も、必要な時間も異なるという点も、扱いを難しくしている。さらに、「聞くこと」や「話すこと」の方が授業内での活動で重視されやすいことから、書く活動は、家庭での宿題として扱われる場面も少なくない。しかしこれでは、書く活動における過程が見えず、また教師はその過程において適切な支援をすることもできない。

そこで、書きたいと思うテーマであるか、自分が書きたい内容を表現するための語いや文章構成力が十分にあるか、限られた授業時間の中で生徒の意欲を引き出し、いかに個に応じた指導を行うか、ということ踏まえて指導を行えば、「書きたいのに書けない」「書く力はあるのに書く意欲がわからない」といった学習上の障壁を取り除くことができ、また伝えたいことを書く力を伸ばし、さらに学習指導要領の目標である「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことができると考えた。

(3) 課題解決のための手だて

基礎・基本の定着を図るために継続的に取り組むことができる言語活動

単語・語い練習、ビンゴゲーム、シャドーイング、ラスト・センテンス・ディクテーションなど、他の領域と連携した活動を取り入れ、既習事項の定着を図る。さらに、週末の予定や報告、身の回りの人物紹介といった身近な題材や教科書で扱われている題材を取り上げた言語活動を行う。

書く意欲を高めるための工夫

ア 題材選び

生徒が書くことの必然性を感じ、書きたいと思うような「自己紹介」「将来の夢」「学校生活」など身近な題材を取り上げる。

イ 取り組み方の明示

- ・活動のねらいを明確に伝える

例えば、正確さより内容を重視する活動であるならば、教師が「間違いを恐れなくてよい、わからない語句はカタカナでもよい」などと伝えることで生徒は安心して内容を考えることができる。

- ・読み手を意識させる

読み手を意識させることによって、何をどのように書いたらよいのかがわかり、生徒の書く意欲を高めることができる。また書いたものを読んでもらい、添削ではなく内容へのコメントをもらうことで、生徒は伝わる喜びを感じ、次の活動への意欲の向上につながる。

ウ 「書けそうだ」という手応えを感じさせる支援

- ・ブレン・ストーミングの活用

書き始める前にグループやクラスでブレン・ストーミングを行うことで、書く内容についてイメージをふくらませることができる。また、表現方法についても意見を出し合うことで、「書けそうだ」という気持ちを高めることができる。その際、メモをとったり図を作成したりすることは、書きやすさを高める工夫のひとつである。

個に応じた指導の工夫

- ・アシスタントシートの用意

内容のイメージがふくらんでも、中には書くための語いや表現などがわからなくて活動が進まない生徒もいる。そのような生徒のためには、一人一人の活動に応じて必要な語いや書き出しなどを、あらかじめ用意したシートで提示することが有効な支援である。

#### 4 実践事例

##### 【言語活動例 1】

##### 読み手を意識し、ブレン・ストーミングを取り入れた言語活動

##### (1) 仮説を検証するための手だて

「コミュニケーション活動に必要な基礎・基本を身に付けさせる」ために

- ・ 前学年の教科書を使い、継続的に復習の活動をさせる。(Listening&Writing Practice)
- ・ 一定期間前に学んだ単語を継続的に復習させる。(Bingo game)
- ・ 新しい語い・言語材料に慣れさせる。(Reading Practice)

「主体的に書こうとする意欲を高める」ために

- ・ 事前に読み手が住む国の歴史や特色・スポーツ・気候などの情報を与える。
- ・ 読み手を意識して英語で文章を書かせる。
- ・ Brain Storming によって書く内容を膨らませる。
- ・ 何をどう書いたらいいのかわからない生徒には Assistant Sheet に記入させる。

##### 言語活動のねらいと活動の工夫

活動のねらい：読み手に正しく伝わるように日本を紹介する文を書くことができる。  
最初に、Brain Storming をすることで様々な情報を与え、主体的に書こうとする意欲を高める。

配当時間：授業の後半 35 分(Reading Practice 10 分、Brain Storming 10 分、Composition 15 分)

活動の工夫：・日本の特色としてどんなものが挙げられるか、様々な角度から考えていく(自然・文化・伝統・食べ物など)ことで、自分の考えを膨らませるきっかけとする。  
・書くときに、単語や Key Sentence などの情報を示すことで、書こうとする意欲を高める。  
・英語を苦手としている生徒の参考になるような Assistant Sheet (P.19 参照)を配布する。

##### 実際の展開方法と指導のポイント

指導のポイントと展開方法	
展開方法	指導のポイント
<p>Brain Storming ~ 「日本の何を知りたいか」ということを様々な角度から発話させる~ 日本にはどんなものがあるのかを、クラスの中で発話させる。</p> <p>その中でどんなものを Mary に紹介したいのかを考える。</p>	<p>みんなで日本について話すことで、日本の特徴についてどんなものがあるのか、考えを膨らませるようにする。(自然・食べ物・伝統など)</p> <p>日本について1つ紹介したいことを選び、日本のどのようなことを伝えたいかを考えさせる。</p>
<p>Composition 活動 ~ Mary に日本のことを紹介する手紙文を作成させる~</p>	
<p>テーマを決めたら、key sentence の There is (are) ~. を中心に、Mary に宛てて日本のことを紹介する手紙文を書く。</p> <p>書く内容や手紙文の書き方が分からない生徒には、Assistant Sheet を参考にさせる。</p>	<p>Brain Storming を生かして、読み手に内容が伝わるように日本を紹介する手紙文を書く。</p> <p>Assistant Sheet などを参考にすることによって、主体的に書こうとする意欲を高める。</p>

(2) 検証授業による実態の把握 (アンケートによる)

授業での様々な手だてが、生徒の「書く活動」に役立っているかどうか、検証授業後、生徒11名を対象に以下のアンケートを実施した。

アンケート集計結果

《書く活動を振り返って》		1	2	3	4	5
英語で E-mail を書く前のことについて考えましょう	1. ペアやグループで事前に話し合うことで、書こうとする気持ちは高まりましたか。		2	5	4	
	2. ペアやグループで事前に話し合うことで、書こうとする内容が深まりましたか？	1		2	6	2
英語で E-mail を書いておるときのことについて考えましょう。	1. Mary が日本のことをよく知らないイギリスに住む中学生であることを意識して E-mail を書こうとしましたか。	1	3	4	2	1
	2. Mary がどんなことを知りたいかを考えて E-mail を書こうとしましたか。	1	1	5	2	2
	3. イギリスについて事前に学習したことが手紙を書くときに役立ちましたか。	3	2	1	4	1
自分の伝えたいことを書くことができましたか。		2	2	2	1	4
今日の授業でやったことで作文を書くのに役に立ったと思うことに をつけましょう。 (いくつでもよいです。)						
1. 小テスト (5)      2. Bingo Game (3)      3. Reading Practice (6) 4. Brain Storming (9)      5. その他 (2)      * ( ) 内は人数						

<備考：1 そうは思わない 2 あまり思わない 3 ふつう 4 まあそう思う 5 そう思う

(3) 考察

アンケート結果より、書かせる前に Brain Storming を行うことは、そのテーマについて何をどう書いたらよいかの分かり、生徒の学習意欲を高めることにつながった。また、毎回の小テスト、Reading Practice の積み重ねにより、英語で文章を書く力が向上する。授業中の生徒の取り組み状況から、「英語で書くこと」を難しいと感じている生徒でも、単語・例文などのヒントがあれば、「書いてみよう」という意欲が高まるということを検証することができた。

Assistant Sheet (例)

何を書いたらよいか分からない生徒に与えるヒント
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本には1億3千万人の人がいます。 ( ) ( ) 130,000,000 people in Japan.</li> <li>日本には4つの大きな島があります。北海道、本州、四国、九州です。 ( ) has four big islands-Hokkaido, Honshu, Shikoku, and Kyushu.</li> <li>四季があります。 We ( ) four seasons.</li> <li>長い歴史があります。 ( ) ( ) a long history.</li> </ul>

生徒の作品

## Let's Write an E-mail to Mary about Japan

☆ MaryはScotlandに住む、日本のことを知らない中学2年生です。Maryに日本のことを教えるe-mailを書いてください。

From :

Subject: Japanese tradition

---

Dear Mary

Thank you for your e-mail. Today I'm going to tell you about my country, Japan.

Japan has a lot of traditions.  
 For example, 'Ikebana'. It uses some flowers.  
 It's a very beautiful. I like it very much.  
 When they make Ikebana, they wear Kimono.  
 Do you know the Kimono? Kimono is Japanese traditional dress. It is a very beautiful and close. But Kimono is very heavy.

Your name \_\_\_\_\_

上の作品を完成させるためのMEMO書き

[ MEMO ] 日本語でも英語でも OK

1. Maryは日本についてこんなことを知りたいだろう？

文化、歴史

2. あなたは何について伝えようと思いますか？

生花・着物

3. e-mailを書いた後、伝えなかったけど英語でどう言えばいいかわからなかった表現があれば、ここに書いて下さい。

たいてい私は着物をまだ着たことがない。いつか着たいと思っている。... という文。

Class( ) No.( ) Name( )

その他〔MEMO〕で書かれていた事

1. .	2. .
・日本の文化	・はし・花火大会
・日本の見所 (有名な場所など)	・京都・富士山 白川郷 など
・日本の食べ物	・納豆
・日本の四季	
・日本のスポーツなど	
3. .	
・文法が難しい(whenなどを使った文)	
・単語が分からない・表現の仕方が難しい	
・伝えたいことを書くことは難しい	
・全体的に分からなかった	など

この時点では、生徒の書いた英文中の誤りなどについては指導をしていない。

【言語活動例 2】

書く内容を意識するために図を活用した言語活動例

「コミュニケーション活動に必要な基礎・基本を身につけさせる」ために

- ・ 既出の言語材料を使って週末の出来事を表現させる(Warm-up)
- ・ 前時に学習した言語材料の確認 (if の意味と用法の確認)
- ・ 教科書を正しい強勢、イントネーション、区切りで読む(Reading Practice)

「主体的に書こうとする意欲を高める」ために

- ・ land を題材にした図の作成
- ・ land を題材にした図を参考に、相手を誘うためのセールストークを考える。
- ・ 自作した図を活用して、「誰に書くか、いつ、どこで、何をするか。」を決めて英文を書く。
- ・ 招待状をお互いに見せてコメントを書き合う。

(1)活動のねらいと活動の工夫

活動のねらい：間違いを恐れずに積極的に招待状を書くことに取り組む。招待状を見せ合い、コメントをし合うことで、主体的に書こうとする意欲を高める。

配当時間：授業の後半 31 分 (作図 10 分 Composition16 分 Show and Comment 5 分)

活動の工夫：・身近な題材(本時では land)を使って招待状を送る相手に「一緒に行きたい」と思えるようなセールストークを考える。  
・他の生徒の招待状を読んで、アイデアをさらに深める。コメントを書き合うことで、書こうとする意欲を高める。

(2)実際の展開方法と指導のポイント

展開方法と指導のポイント	
展開方法	指導のポイント
招待状の作成	
land を題材に図を使って、相手が「一緒に行きたい」と思えるようなセールストークを考える。 自分で作図をして相手を誘うためのセールストークを考える。 誰に・どこで・いつ・何をするかを決めて英文を書く。	作図することでどんなことを書けばよいかのイメージを膨らませる。 作図することで相手をひきつけるセールストークを考えさせ、書かせる。 Assistant Sheet を与え、主体的に取り組ませる。
Show and Comment ~招待状へのコメント~	
招待状を交換し、出来るだけ英語でコメントを記入しあう。	生徒の招待状を読み、コメントを記入し合うことで、主体的に書こうとする意欲を高める。

【板書の作図例】



【生徒の作図と作品】

Invitation Sheet

Class No. Name

Dear: \_\_\_\_\_ & \_\_\_\_\_  
 Let's go to the Ueno! Ueno is interesting!!  
 Do you have free time at Winter vacation?  
 I want to go at December 20, Can you come  
 Front of Rensei Junior High school gate?  
 I hope to go to KARAOKE and MOVIE.  
 I'm looking forward on the day!  
 Come there ~[-□]  
 See you! From \_\_\_\_\_

Comment

あなたはこの招待状を読んで、行きたくありませんか。

1 

はい	いいえ
4	③

 2 

はい	いいえ
④	3

Oh yes! I want to go to Ueno to \_\_\_\_\_

Thank you!!  
I will go to Ueno.

Signature \_\_\_\_\_

Invitation Memo

Class No. Name

MOVIE FOOD  
 Veno town  
 KARAOKE SHOPPING

To Who (誰に・へ) \_\_\_\_\_ & me  
 Where (どこで) \_\_\_\_\_ When (いつ) \_\_\_\_\_  
 Front at Rensei High school gate, Winter vacation  
 What (何を) \_\_\_\_\_  
 Sing a Song, \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 How (相手をひきつけるセールストーク集)  
 Shall we sing a song?  
 \_\_\_\_\_  
 From Who (だれから) \_\_\_\_\_

この時点では、生徒の書いた英文中の誤りなどについては指導をしていない。



## 5 研究の成果と課題

第2分科会では、「伝えたいことを書く力を伸ばす指導の充実」という研究副主題を設定し、主題へ迫るために「コミュニケーション活動に必要な基礎・基本を身に付けさせれば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるであろう。」と「主体的に書こうとする意欲を高める指導を継続的に行えば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるだろう。」という2つの仮説を立て研究に取り組んできた。仮説を検証した研究の成果と課題が以下のとおりである。

### (1) 研究の成果

#### 日常の活動での高まり

「基礎・基本を身に付けさせる」ために、ラスト・センテンス・ディクテーションやビンゴ・ゲーム、シャドーイングなどの日常の学習活動を、「書く」活動につなげていくことを意識して語や文などのインプットを継続的に行った。こうした活動を通して、教師が与えた語や文を書き写すことから、与えられたものを参考にして自分が書きたい内容に変えたり、同じ内容を表す既習の表現を用いたりする活動へと発展させる生徒が見られるようになった。徐々にではあるが伝えたいことを生徒自身の言葉で表現できるようになってきた。

#### 書く内容をまとめることでの意欲の高まり

「主体的に書こうとする意欲を高める指導」として事前に情報を与えてグループなどでブレン・ストーミングをしたり、図を活用したりした。これらの活動から、情報を伝える「相手」、その「内容」などを考え、整理をしてから書く活動へと結び付けた。こうした活動を通して、生徒は自身の希望や経験を振り返りながら、何をどのように書けばよいかの筋道をつけていたことから「書く」意欲は高まり主体的な活動となったと考える。

#### 個に応じた指導

「何をどのように書いたらよいか」が分からない生徒のために、個の活動状況に応じて支援の手立てとなるアシスタントシートを用意した。その結果、活動を終えることができたという達成感が生まれ、以降の学習への動機付けとなった。

### (2) 今後の課題

#### 取り組みに対する意識の低い生徒への対応

様々な指導の工夫や支援をしても「何をどう書いたらよいか」と伝えたいことを明確にできない生徒もいた。こうした生徒を主体的に活動に取り組ませるためにどのようなアプローチがあるのか、書かせる内容や支援の方法をさらに研究していく必要がある。

#### 「書く」活動の時間の確保

「書く」力を伸ばすには、何をどのように書かせたいかという目的を明確にして、継続的に取り組むことが大切である。今回のように個に応じた指導をさらに充実させるためにはある程度の時間を要するので、計画的に指導の時間を確保する工夫が必要である。また、アシスタントシートの作成については、生徒の実態を考え工夫や研究を深めていく必要がある。



## 研究の成果と課題

本研究では、研究主題を「豊かな表現力を養うための個に応じた指導の充実」と設定し、2つの分科会に分かれ、それぞれ「話すこと」、「書くこと」という表現力にかかわる指導の充実について、「個に応じた指導」をさらに推進しつつ、実践研究を進めてきた。

第1分科会では、「表現力豊かに話す生徒を育成する指導の充実」という副主題を設定し、実践研究を進めた。副主題に迫る手段として、仮説を「『話すこと』の学習において、基礎的な文法・語いや表現などの定着を図るとともに、実際にそれらを使用する場面を多く設けることによって、表現力豊かに話す力が養われるであろう」と設定し、具体的には「基礎的な語いや文法の定着を図るための継続的な言語活動の充実」と「実際に使用場面を多く設ける工夫」をあげた。

第2分科会では、「伝えたいことを書く力を伸ばす指導の充実」という副主題を設定し、実践研究を進めた。副主題に迫る手段として、仮説を「コミュニケーション活動に必要な基礎・基本を身に付けさせれば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるであろう」「主体的に書こうとする意欲を高める指導を継続的に行えば、伝えたいことを書く力を伸ばすことができるであろう」と設定した。具体的には、「基礎・基本の定着を図るために継続的に取り組むことができる言語活動の充実」と「書く意欲を高める場面設定の工夫」をあげた。

### 1 研究の成果

#### (1) 個に応じた指導と学習意欲の向上

第1分科会と第2分科会がそれぞれに実践した手段は、生徒の「話す意欲」「書く意欲」を高める上で効果があることが確認できた。まず、生徒の実態調査をもとに言語活動の場面設定を行うことで、生徒の興味をより引き付けることができた。また、生徒の学習状況に応じた課題や解決手段を用意することで、生徒があきらめずに言語活動に取り組める場面が増えた。

授業後に行った調査等にも、生徒が意欲的に学習に取り組んでいたことが表れていた。またチャットや図を利用した英作文等、新たな言語活動の実践前と後では、実践後の方が意欲的に言語活動に取り組む気持ちが養われていることが分かった。

#### (2) 継続的な言語活動の充実と基礎・基本の定着

ある言語活動を継続的に行うことで、生徒が伝えたいことを話したり、書いたりするための語いや表現を身に付けることができた。さらにその活動に対して個に応じた指導の手だてを講じることは、次の活動への意欲を刺激し、表現力を高める一助となることが確認できた。

### 2 今後の課題

#### (1) 指導計画の工夫

継続的な言語活動を行うためには、計画的に活動時間を確保しなければならない。また、個に応じた指導を充実させるためにも、生徒一人一人の学習の成果を把握するとともに、活動目標を明確にし、3年間を見通した活動計画を工夫することが重要である。

#### (2) 「正確さ」の向上と学習意欲

今回の実践研究では、生徒が間違いをおそれずに、話したり書いたりすることの指導に重点を置き、学習意欲を向上させた。今後、生徒の意欲を高めつつ、正確で適切な発話や記述をさせるにはどのような指導を展開していけばよいのか、また意欲の向上が「正確さ」にどう結び付いていくのか、という点について研究する必要がある。

平成16年度 教育研究員名簿（ 中学校外国語部会 ）

	区市町村名	学 校 名	氏 名
第 1 分 科 会	江 東 区	第 三 亀 戸 中 学 校	本 郷 卓 也
	練 馬 区	開 進 第 一 中 学 校	伊 地 知 可 奈
	足 立 区	竹 の 塚 中 学 校	上 尾 栄 美 子
	江 戸 川 区	瑞 江 中 学 校	谷 口 了 太
	町 田 市	鶴 川 中 学 校	荒 川 高 広
	東 村 山 市	東 村 山 第 五 中 学 校	美 濃 谷 ひ ろ み
第 2 分 科 会	千 代 田 区	練 成 中 学 校	井 上 武 始
	品 川 区	荏 原 第 四 中 学 校	近 藤 光 代
	豊 島 区	長 崎 中 学 校	齋 藤 浩
	北 区	紅 葉 中 学 校	澤 雄 策
	三 鷹 市	第 四 中 学 校	雲 出 和 子
	多 摩 市	豊 ケ 丘 中 学 校	伴 野 敦 子

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 石 鍋 浩  
指導主事 松 永 透

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成16年度 第21号  
(東京都教育委員主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社